(昭和56年4月27日第3種郵便物認可)　中日新聞　2013年(平成25年)8月4日(日曜日)　(日刊)
©中日新聞東海本社2013

中日新聞
中日新聞東海本社
浜松市東区薬新町45番地
〒435-8555　電話 053(421)7711

協力金10日間で3400万円

富士入山料へ視界良好

使い道／任意か強制か 宿題に

十日間の試験導入を終えた富士山保全協力金は、静岡、山梨両県の予想を上回る賛同があった。来年から本格導入するが、使い道をはじめ、任意か強制かの方法や金額、集金時間などは宿題として残る。（山田晃史、写真も）

●「登山者の半数」

試行最終日となった三日の富士宮口五合目（富士宮市）。集金窓口には続々と登山者が訪れた。静岡市葵区の主婦森永文恵さん(六三)は「自宅から毎日、富士山を眺めている。何かの役に立てるのならうれしい」と笑顔。協力金の対象は山頂を目指す登山者だが、窓口には五合目で観光する人の姿もあった。

両県は四つの登山道で協力金を払う人を二万五百人程度と見込み、協力者に渡す缶バッジを準備した。だが、当初の想定を早い時期から上回り、二万一千八百個を追加で発注した。

静岡県交流政策課の疋田真左人課長は「感覚では登山者の半数は協力してくれた。この十日間で大勢に浸透し、来夏への大きな一歩になった」と手応えを感じる。

●夜間も集金？

今回は午前九時から午後六時まで各登山道に人を配置して、任意の協力金という形で集金した。山梨県の横内正明知事は七月二十八日の視察で、来年の集金時間について「公平を期すために、二十四時間態勢が基本だろう」と述べ、夜間も集金することが望ましいという考えを示した。

両県は夏山シーズン終了後に議論し、本格導入の詳細を決める。

国内の世界遺産では、白神山地（青森、秋田県）の一部や屋久島（鹿児島県）が先行して任意の協力金を集めている。屋久島は一人五百円、白神山地は金額も自由だ。

「富士山学」が専門の渡辺豊博・都留文科大教授＝三島市＝は「日本の世界遺産は集金のための人件費など消え、協力金が十分に生かされていない」と指摘。「エベレストや米国の国立公園などは入山料を義務付けている。法律を作り、もっと高い料金を強制で集めなければ成功しない」と話す。

●〝基金〟構想も

集めた協力金は、富士山の環境保全と登山者の安全対策に充てるが、具体的な使い道は示せなかった。下山者に実施したアンケートを分析して両県で検討する。

富士宮口を一日に視察した静岡県の川勝平太知事は「寄付金やふるさと納税も増えているので、〝富士山基金〟として多くの協力を得られるようにしたい」と述べる一方、具体的な用途の明示が課題との考えを示した。

渡辺教授は「今夏中に登山道の危険な場所や混雑状況、自然環境の現状を調査するべきだ」と求めている。

富士山保全協力金の窓口に並ぶ大勢の登山者たち＝3日、富士宮市の富士宮口5合目で

試験導入終了

富士山の環境保全や登山の安全対策に充てる「富士山保全協力金」の試験導入が三日、終了した。静岡、山梨両県の四登山口で七月二十五日からの十日間、一人千円を任意で集金。三万四千三百二十七人の協力者から三千四百十二万九千八百二十二円が集まった。

静岡県側の富士宮口（富士宮市）、御殿場口（御殿場市）、須走口（小山町）、山梨県側の吉田口（富士吉田市）で、県職員らが午前九時から午後六時まで協力を呼び掛けた。両県はアンケートも同時実施しており、来年の本格導入に向け、金額や集金方法などの意見を集約する。

富士山は六月の世界文化遺産登録後、初の登山シーズンを迎え、七月一～二十一日の登山者は前年同期比35％増の七万九千五十七人で最多だった一〇年の三十二万九百七十五人を上回った。県内三登山口の登山者数は計三万一千六百四人で、前年同期比51・6％増。

このままのペースでいくと、七月一日～八月三十一日の夏の登山シーズン全体で最多だった一〇年の三十二万九百七十五人を上回るのは確実とみられる。

多くの方が賛同、大変心強い

川勝知事

静岡県の川勝平太知事の話　富士山の環境保全と登山者の安全確保に役立てる富士山保全協力金の呼び掛けに国内外から富士山を訪れた多くの方がご賛同いただけたことは大変心強く、感謝申し上げる。皆さまから頂いた協力金は両県でお預かりし、納めていただいた方にもご納得いただける使い道を明らかにし、役立てていきたい。